

員等重大ナル諸問題ヲ閉却シ農村問題ニ於テモ吾人平素ノ持論ニシテ且後藤農相ヨリ提案セラレタル非常時局間
農地租全免肥料統制等ノ根本問題ニ關シテハ首相初メ閣僚ノ熱意不足ト黨略的反對トノ爲メ會議僅ニ二回ニシテ
既ニ早クモ前途ヲ悲觀セララル、ニ至レリ。

六
之ヲ要スルニ重大困難ハ時々刻々逼迫シツ、アルヲ以テ爲政ノ局ニ當ル者ハ異常ノ大決心ヲ以テ政治及經濟機
構ニ一大改革ヲ斷行シ先ツ内ニ國論ヲ統一ヲ計リ國力ノ培養特ニ軍備ノ充實ヲ計リ以テ將來ノ國難ニ備フベキニ
拘ラズ齋藤内閣一年有半・施政ハ殆ト二トシテ是等重要問題ヲ解決シタルモノナク遺憾ナク無爲無策無力ヲ暴露
シ如何ニ之ヲ督勵鞭撻スルモ最早到底此非常時ヲ擔任スルノ資格ヲキヨト明トナレリ苦シ現狀ヲ以テ荏苒日ヲ曠
ウセシカ遂ニ國家ヲ不測ノ深淵ニ陥ル、ヤ必セリ故ニ吾人ハ國家的見地ヨリ現内閣ノ存立ニ對シテ反對ノ意思ヲ
表明セザルベカラザルヲ遺憾トセルモノナルコトヲ茲ニ聲明ス。

議會の廓清と政黨政治の打破

昭和九年一月十八日

一、非常時打開の先決條件

「非常時」は一昨年あたりから既に盛に云ひ古された言葉であつて、國民の大部は依然之を確信して居るにも拘
らず、既成政黨や、實業界方面には既に之に對する反動思想が擡頭し始めたかの如くであり、昨年中頃より「非
常時既に解消せり」とか「一九三五、六年何等日本の危機と認められぬ」とか、甚しきは「非常時なる語は軍入
が勝手に云ひ出した言葉であつて、若し軍人さへ言動を慎むならば、非常時なるものは直に日本から消え去つて
終ふのだ」など放言して居るを耳にするに至つた。是等の言は認識不足と云はんよりは、寧ろ某勢力に對する反
感から出た故意の放言であつて、仔細に我國内外の情勢を觀察したならば、單に所謂外交工作のみに依頼する現
狀維持は我國の自殺に外ならないこと識者の齊しく確認する處である。
然るに若槻民政黨總裁は、先きに東北大會に於て一九三五、六年の危機なぞ臆ぎ立てる者があるが、そんなも
のは認められないと放言したが、今又齋藤首相との會見に於て「今から對米、對露等の外交工作を適正に施して
行けば其危機は避け得る、其の意味に於て危機はないと云ふことに於て首相と完全に意見の一致を見た」と發表
して居る。其内容の適否は先づ問題外として、彼は須く此の如き公表が外國や國內民心に如何なる悪影響を與へ
るかを一考せねばならぬ。先づ國民は此言を聞いて安心する。日本は外交さへ甘くやつて行けば軍備も民力の充
實も最早必要はないと、折角緊張した民心は緩弛し、國論の足並は益々亂れる。又之を見た外國は何と思ふ、日
本の手はもう分つた、外交一點張りて國防準備は不十分だ、機乗すべし此際速に日本を撃つべしと。かうなれば
避け得べき危機も遂に避け得ることになる。彼は先づ外交の種あかしをして後外交で行かちと云ふのだ。其愚
や笑ふべく、其罪や恕すべからずだ。